



## 診療内容

婦人科外来は、子宮頸がんを中心に婦人科がんの早期発見が第一であり、次に早期診断につながる頸がん前がん病変である CIN（Cervical Intraepithelial Neoplasia；頸部上皮内腫瘍）の経過観察の二つが主な診療内容です。このため、診察に当たる医師は全てこの分野のエキスパート（専門医）が担当しているという大きな特徴があります。

検診や診療所での一次検診で要精密検査となった方が、病院で治療する必要が有るか否か診断して、病期に応じた治療機関を紹介する二次検診機関（精密検査）の役目を果たしています。もちろん、地域がん検診機関として近隣住民を対象に個別検診や女性外来等も行っています。

### ●精密検査（二次検診）

細胞診、コルポスコープ診、狙い組織診、必要に応じて内膜搔爬（そうは）診、経膈超音波検査、HPV（Human papillomavirus；ヒトパピローマウイルス）検査等を行い、これらの結果から総合診断して治療のための専門医療機関の紹介、経過観察、異常なし群に分けます。

#### ・細胞診

子宮頸部、体部の細胞を器具で採取して異常の有無を調べます。

#### ・コルポスコープ診

子宮頸部に酢酸を塗布後、コルポスコープ（頸部拡大鏡）で観察して病変の部位と程度の検査を行います。

#### ・狙い組織診

コルポスコープで確認した病変部位を狙って、切除器具で組織を採取して病理検査を行います。

#### ・内膜搔爬（そうは）診

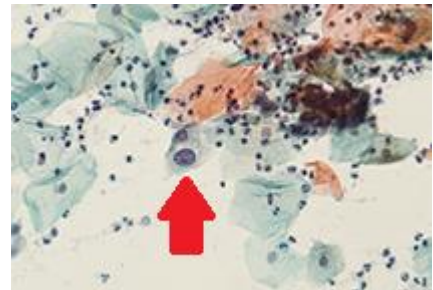
子宮内膜（体部）の組織を採取して病理検査を行います。

#### ・経膈超音波

膈内にプローブを挿入して子宮頸部、体部、内膜、卵巣等の検査を行います。



■結果説明



■顕微鏡による上皮内腫瘍細胞



■コルポスコープ（頸部拡大鏡）

## ・ HPV 検査

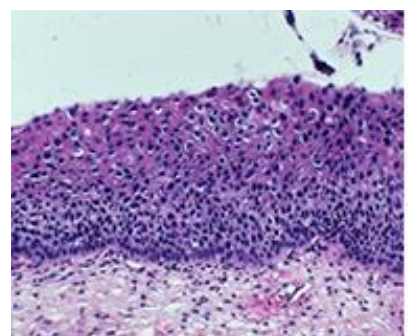
頸がん発生の原因となる HPV（ヒトパピローマウイルス）が子宮頸部に感染しているか否かを検査します（HPV テスト）。  
病変の程度により治療判定の指標として HPV のサブタイプ（亜型）を検査します（HPV タイピング）。



■ コルポスコープによる子宮頸部の  
拡大写真/白い部分が上皮内腫瘍

## ■ 診療実績

平成 26 年度の実績を示します。年間外来総数 2618 人、発見された浸潤がん 13 人のうち子宮頸部の扁平上皮がん 7 人、体部がんを含む腺がん 6 人でした。また、子宮頸部の高度異形成 85 人、上皮内がん 6 人でした。



■ 顕微鏡による子宮頸部の上皮内腫瘍組織

## ■ 認定施設

日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設

日本臨床細胞学会認定施設

検査項目はご相談の上お決めいたします。

## その他

家族性膀胱癌や遺伝性びまん性胃癌などの遺伝性腫瘍症候群の遺伝カウンセリングも行なっております。

遺伝カウンセリング外来は病気と遺伝に関する正しい最新の情報を提供し、ご自身の考えを尊重しながら、ご本人とご家族の健康管理に役立つことを一緒に考える外来です。お気軽にご相談ください。